

## 琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査結果（概要）

### 1. 調査方法

本調査は1994～1995年（平成6～7年）に滋賀県水産試験場が実施した「平成6～7年度琵琶湖および河川の魚類等の生息状況調査」（以下前回調査）に準じ、同様の調査方法により実施した。

#### （1）調査期間

2002年（平成14年）6月～2003年（平成15年）10月

#### （2）調査対象

琵琶湖および河川等県下に生息している魚類および甲殻類（エビ類・カニ類のみ）とし、以下両者をあわせて「魚類等」という。

#### （3）調査地点

県下内陸部および琵琶湖の魚類等の生息状況を総合的に把握するため、県下を5地域に区分し、各調査地域から河川、内湖など水域別に一定数の調査地点を次のとおり設定した。

内陸部 各地域ごとに1河川（上流2地点、中・下流2地点）を原則とした。

各地域ごとに1内湖（1地点）を原則とした。

琵琶湖 各地域ごとに沿岸2地点、沖合1地点を原則とした。

また、各水域ごとにエリの漁獲標本調査1ヶ所を原則とした。

※ 沿岸は概ね水深7m以浅、沖合は水深20m以上の水域

#### （4）調査時期および回数

河川上流は1～2回、下流は春期、秋期の2回、内湖は春期、秋期の2回、琵琶湖沿岸部は秋期、春期、夏期の3回、琵琶湖沖合部は秋期、冬期の2回、エリ標本調査は冬期、春期の2回を原則とした。

#### （5）採集漁具

前回調査に準じ、報告書に使用されている漁具を使用した。

河川 エレックトリックショッカーおよび投網

内湖 調査用小型定置網

琵琶湖沿岸 調査用小型定置網および調査用小型沖曳網

琵琶湖沖合 沖曳網備船

#### （6）種の同定および計測

河川調査の採捕魚は原則として、上流調査では現場で体型測定を行った後、再放流した。中・下流調査では全て冷蔵で持ち帰り、同定後ホルマリン固定して体型測定を行った。

内湖、琵琶湖沿岸での小型定置網調査および琵琶湖沖合の沖曳網調査の採捕魚は原則として、冷蔵で持ち帰り、種の同定、尾数の計数をした後、ホルマリンで保存し体型測定を行った。

沿岸の小型沖曳網調査および琵琶湖沿岸のエリ標本の採捕魚は原則として、ホルマリンで固定し持ち帰り、種の同定、尾数の計数の後、体型測定を行った。

(7) 調査人員

江竜勝一、里井晋一、岩崎治臣、山中治、氏家宗二、森田尚（河川調査とりまとめ）、津村祐司、西森克浩、太田滋規（内湖および琵琶湖調査とりまとめ）、上野世司、白杵崇広、亀甲武志、幡野真隆